

1. 件 名：新規制基準適合性審査に関する事業者ヒアリング（東海第二（1235））

2. 日 時：平成30年9月3日 10時00分～12時30分
13時30分～18時45分

3. 場 所：原子力規制庁 8階A会議室

4. 出席者

原子力規制庁：

（新基準適合性審査チーム）

中川上席安全審査官、植木主任安全審査官、正岡主任安全審査官、宇田川原子力規制専門職、堀野技術参与、山浦技術参与

事業者：

日本原子力発電株式会社：発電管理室 炉心燃料サイクルグループ グループマネージャー
他18名

東北電力株式会社：原子力品質保証室 担当 他3名

東京電力ホールディングス株式会社：原子力設備管理部 設備技術グループ 副長 他3名

中部電力株式会社：原子力部 設備設計グループ 担当 他3名

北陸電力株式会社：志賀原子力発電所 保守部 保守計画課 担当 他2名

中国電力株式会社：電源事業本部（原子力品質保証） 担当係長 他4名

電源開発株式会社：原子力技術部 設備技術室 担当 他4名

5. 要旨

（1）日本原子力発電から、本日の提出資料に基づき、東海第二発電所の工事計画認可申請に係る要目表、品証関係、強度に関する説明書及び耐震性に関する説明書について説明があった。

（2）原子力規制庁から主に以下の点について指摘を行った。

【強度に関する説明書、耐震性に関する説明書】

<起動領域計装の耐震性についての計算書>

- 解析モデルの拘束条件について、支持構造を踏まえた設定根拠を整理して提示すること。
- 「地震応答解析の基本方針」に記載される地震荷重、解析手法及び解析コード等について、他の計算書と整合をとること。

<原子炉格納容器スタビライザの耐震性についての計算書>

- 「フランジとトラスの取付部（応力評価点P1）」に用いる断面積の設定根拠について整理して提示すること。

<機器搬入用ハッチの耐震性についての計算書>

- 「6. 応力強さの評価結果」に示されるⅣ_AS、Ⅲ_ASの順序を見直すこと。

<機器搬入用ハッチの強度計算書>

- 「5. 2. 3. 1 鏡板 (応力評価点 P 1 及び P 2) b. 応力評価点 P 2」の「図 5-3 計算モデル」及び「5. 2. 3. 2 フランジ (応力評価点 P 3)」の「図 5-4 計算モデル」に示される N φ について整理して提示すること。

(3) 日本原子力発電から、本日の指摘等について了解した旨の回答があった。

6. その他

提出資料：

- ・ V-2-9-2-6 機器搬入用ハッチの耐震性についての計算書
- ・ V-2-3-4-3-1 原子炉圧力容器スタビライザの耐震性についての計算書
- ・ V-2-3-4-3-2 原子炉格納容器スタビライザの耐震性についての計算書
- ・ V-2-6-5-1 起動領域計装の耐震性についての計算書
- ・ V-3-9-1-2-2 機器搬入用ハッチの強度計算書
- ・ V-2-4-2-2 使用済燃料貯蔵ラックの耐震性についての計算書
- ・ V-2-9-5-3-3 可燃性ガス濃度制御系再結合装置の耐震性についての計算書
- ・ V-2-11-2-4 チャンネル着脱機の耐震性についての計算書